

E Vローラー 商品化へ

酒井重工が4トン級

酒井重工はリチウムイオン電池で駆動する電気自動車（EV）式ローラーの2号機として、客先での利用を想定した機種を年内に製作する。完成済みの1号機は社内テスト用が主目的で、客先の利用を想定した作りになっていない。ローラーは地面を押し固める作業に用いる。2号機を実際の現場工事で実験的に利用してもらおうと、細かい操作性や使い勝手などを検証。改良に反映し、早期の商品化につなげる。

環境保護や二酸化炭素（CO₂）排出削減の見地から、コマツや日立建機をはじめとする建設機械メーカー各社はEVシヨベルの開発を加速している。酒井工業は主力製品のEVローラーで対応する。酒井重工が開発を進

年内に2号機 現場で検証

めるEVローラーの大きさは4トクラス。油圧シヨベルと同様、ローラーも重量が大きい。でおり、将来新しい電



酒井工業が開発を進めるEV式ローラー

池が登場した段階でそれに置き換えて実験を続けることも視野に入れる。

ため、現在のリチウムイオン電池では稼働時間が短く、価格も通常車の数倍する。ただ、電池自体は高性能化が進んでおり、交換方式が可能かどうか検討したが、重量が大きいので難しい。ただ関心はある」と話す。